

縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

137



- 02 巻頭言／活躍する縣陵生① 信州つばさプロジェクト 1
- 04 北信越地区高等学校 PTA 連合会 研究大会 長野大会／芸術鑑賞
- 05 地区 PTA ／活躍する縣陵生② 信州つばさプロジェクト 2
- 06 サイエンスアソシエーションプロジェクト／東北スタディツアー
- 07 活躍する縣陵生③ 日本の次世代リーダー養成塾・学生記者派遣・陸上部
- 08 合唱コンクール
- 09 強歩大会／活躍する縣陵生④ 物理化学部・空手道部
- 10 PTA 研修旅行 2019～早稲田大学訪問記～
- 11 活躍する縣陵生⑤ 卓球部
- 12 1 年探究科・普通科国内研修旅行 (12/4～6)
- 13 2 年普通科研修旅行 (12/4～8) ／活躍する縣陵生⑥ 書道部・弓道部
- 14 さらば友よ！旅立ちのとき
- 16 縣陵 2019 年度 SNAP ／編集雑記



令和時代の新年に思う

PTA 会長 窪田 和英



昨年5月に平成から令和への元号が変わってから最初の新年を迎えました。昨年は北信、東信地方を中心に台風19号の大きな被害が発生し、現在も復興の途上にあります。被災に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。最近の災害はこれまで経験した事のない事象が発生し、我々もいつ被災者になるかわからない状況にあります。大規模災害が起きる度に、災害に遭われたご家庭ではお子さんの進路に大きな影響が見受けられ、教育の機会均等化をどのように支援していくか、国としてより一層議論して頂きたいと思います。将来の国を支える人材の教育支援は、今後の日本の発展にも寄与すると思います。

また、本年7月には東京五輪が開催される予定であり、日本が世界中から注目され、海外からの旅行者の増加が見込まれています。訪日外国人の数は日本政府観光局の統計データでは2018年度で3,000万人を超えており、松本でも数年前に比べ外国人旅行者が増加したように感じます。訪日外国人が増加する一方、受け入れ側は外

国文化の多様性を十分に理解するところまで行っていないのが正直なところではないかと思います。

県陵に目を向けると、本年3月をもって英語科が閉科となります。本校に英語科が設置されたのは1994年(平成6年)の事で、海外研修活動を通じて、単に生徒の英語スキルを磨くだけでなく、外国の多様な文化に触れ、生徒の視野を広める事が出来たのだと思います。英語科は本年3月に26年の歴史に幕を下ろしますが、その理念や活動は探究科に受け継がれ、今後は探究科の歴史として脈々と受け継がれていくものと確信しております。

本校のPTA事業は皆様方のご協力で本年度も無事終了しようとしています。例年通り、地区PTAの開催、年2回のPTA広報の発行、強歩大会へのサポートとして多くの保護者の皆様にボランティアとして参加を頂き感謝申し上げます。PTA研修旅行では今年度は「私学の雄」早稲田大学を訪問致しました。早稲田大学では本校OBから実際の学生生活の様子も直接話を伺う事ができ、参加者の皆様には具体的

な情報が得られる良い機会となったと考えております。研修旅行には1年生、2年生の生徒さんも多く参加されており、自分の進路について早めの意識付けを与える活動として非常に有意義な活動となったと思います。本年度のPTA活動にご参画頂いた皆様、中心となり遂行頂いた総務・広報・研修交流会の各専門委員をはじめとするPTA役員の皆様、杉村校長先生はじめ担当職員の皆様、本当に有難うございました。

また、懸案でありましたエアコン問題は2020年に県予算での導入が決まりましたが、県予算で対象外であった教室にも県陵同窓会の多大なるご協力により導入の目処が立ちました。同窓会の御英断に感謝申し上げます。今後は運営コストに関して保護者の皆様にご相談させていただきます。今後ともPTA活動に皆様方の変わらぬご支援、ご協力宜しくお願い致します。

当事者意識を行動に

最近の出来事として、2019年10月に消費税が8%から10%にあがりました。また、大学入学共通テストにおいて英語の外部試験導入問題や国語・数学の記述式問題の見送りなどの混乱がありました。身近な縣陵で言えば、26年間続いた英語科が幕を閉じ探究科・普通科のみとなります。このように周りの環境が目まぐるしく変わっていく中で自分たち自身がいろいろな狭間の世代ということの当事者意識を持つことが大切だと考えます。

この意識を持つために、第73代生徒会では、2019-20年度のスローガンを『Yourself⇒Ourself』に決めました。「Yourself」には「一人一人が自分のやることをやる、役目をこなすことが大切」、「Ourself」には「一人一人がyourselfしているときにはみんなで応援する」という意味を込めています。この2つが一方的な関係ではなく、相互の関係になることで逆に「Ourself」には「みんなで同じゴールを目指すことが大切」、そ

第73代生徒会長 木村 珠星 (2年A組)



れを達成するために「Yourself」で「生徒一人一人がそれぞれのやるべきことをしっかりとやる事が大切」、と捉えることもできます。また、生徒会は生徒会役員が創るものではなく生徒会員一人一人が創るものだと考えてます。「Yourself」を強調しているのには、このような意味もあります。

僕は、会長選挙のスピーチで「生徒会役員を某会社の七味のようになりたいときに使ってください」と言いました。ここには生徒が役員に全てを任せるのではなく、生徒がやりたいことを、言いたいことを可能にする最大限のサポートを役員ができるように、という想いを込めています。

周りが変化している中で、先輩方が行ってきたことをそのまま踏襲するのではなく、今を生きる自分たちだからこそできることを生徒会員全員で考え、新しい生徒会を創っていきます。

縣陵2019年度を振り返って

学校長 杉村 修一

保護者の皆様におかれましては1年間本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をたまわり、誠にありがとうございます。

まず初めに今年度は本校の窪田和英会長には本校PTA会長の他に県高P連の会計監査の大役をお勤めいただき、心より感謝申し上げます。

創立96年目にあたる昨年度、縣陵は探究科を設置し、普通科も「総合的探究の時間」を授業内に取り入れました。大きく注目される学科となり高い志願率を誇っております。加えて普通科の高い志願率は衰えることなく続いており、地域の縣陵に対する期待の大きさに応えるべく、職員は日々研鑽をつんでいるところでございます。

これからの30年先を見たとき、多種多様な人との交わりが必要と推測されます。そんなときに現在の課題を解決するために、お互いがお互いの気持ちと考えを、先ずは聞きながら、その課題解決のための納得解を導く話し合いをすることが大切になります。違った意見を大切にしながらも納得解を得る術

が大切なのです。それには幅広い知識と教養そして「哲学」がとても大切になると思います。加えてICT機器を使いこなす技量も今後必須となります。それらを実現するために、文武両道を唱える縣陵として、様々な新たな試みを行いつつ反省を生かしすぐさま修正するという作業を繰り返しています。

今年度1年生は探究科ばかりでなく、普通科もiPad使用を推奨して授業に活かしております。また先生方も生徒と同じiPadを購入して学んでおります。「生徒たちも先生たちも共に学び合う」という縣陵の気風を止まることなく歩んでおります。そのような取り組みの中から清水中学校や信州大学と学びを共有し合う中高大連携が生まれてきました。このように「内に綴じることなく、外に開く教育実践」を行い、それをさらに広げてゆきたいと考えています。引き続き、多方面でのご支援をよろしくお願い申し上げます。

懸案だったトイレの増設が、大きな改修かで、県教育委員会と詰めているところでございます。また、エアコンも県の工事に合わせて、PTAと同窓会の百



周年事業の一環として残りの教室や研究室にも配置する予定です。ひとえに生徒諸君の訴えと保護者の皆さまの要望の賜物です。ありがとうございました。

校舎は古いものの生活環境やITC環境整備も進み、学習しやすい縣陵へと変身いたします。生徒たちはきっと笑顔で益々学習に部活に探究学習に頑張ってくれることでしょう。

最後になりますが、部活の活躍と英語科閉科式についてお伝えしたいと思います。部活動では弓道部、空手道部、卓球部は県大会を勝ち抜き、選抜の全国大会へコマを進めました。新年度の活躍が今から楽しみです。

3月3日の卒業式の終りと同時に英語科の閉科式を短時間行います。26年間にわたり縣陵のフロンティアとしての役目を探究科に譲ることになります。この間に英語科に関わっていただいた関係各位に改めて衷心より感謝申し上げます。

活躍する縣陵生 その①

信州つばさプロジェクト1

成長を感じた2週間～イギリス留学～

私は7月27日から2週間、信州つばさプロジェクトの個人留学制度でイギリスに行ってきました。信州つばさは長野県の高校生の留学を支援するプロジェクトです。個人留学制度では自分で一から留学を計画し、県が留学費を一部支援してくれます。

イギリス在住の友人の家にお世話になり、そこから語学学校へ通い英語を学びました。そこは16歳以上の生徒対象で多国籍、多年代の学校でした。授業はスピーキングがメインで、会話を楽しみながら学習しました。皆フレンドリーでとても楽しかったです。年代も文化も違う人々と一緒に学んだため考え方の違いに驚かされました。

休日は観光と探究学習を行いました。私は「松本の外国人受け入れ医療」をテーマに個人探究

を行っており、その一環として外国ではどのように他国の人を受け入れているかを調査しました。ロンドンの病院をアポなしでまわり、アンケートに答えてもらいました。結果は、訪れたうちの半数の7件が回答にに応じてくれました。迷惑そうにすぐ追い返されることもありましたが、忍耐強く病院をまわりました。一方で、私の拙い英語にも耳を傾け、快く引き受けてくれる方もいて、諦めずに伝えたいことを伝える姿勢が大切だと感じました。

個人留学は計画から渡航まで自分で動く必要がありますが大変なことも多かったですが、その分達成感は大しかったです。1人で海外に行ったことが自信になり、何事も積極的に挑戦しようとする気持ちが芽生えた良い経験になりました。

(自然探究科2年A組 高田 いのり)



7月4・5日

北信越地区高等学校PTA連合会 研究大会 長野大会

～本校、竹内公人元PTA会長 県代表として表彰される～

2019年度 北信越地区高等学校PTA連合会 研究大会 長野大会が令和元年7月4日～5日の日程で長野市ホクト文化ホール、メルパルク長野の2会場で開催され、本校からは杉村校長先生、竹内元PTA会長、矢口副会長、北和田PTA副会長、宮澤幹事長、春日幹事が出席しました。

今年度は、「郷から未来を拓く」～受け継ぎ、創る新たなストーリー～をテーマに開催されました。

開会式では、PTA活動に功績のあった本校の竹内公人元PTA会長が、長野県の代表として表彰を受けました。本校のPTA会長が表彰を受けたことは、非常に喜ばしいことであり、ご尽力とご活躍に敬意を表したいと思います。おめでとうございます。



開会式の後、歓迎アトラクションでは、飯田OIDE長姫高校生コンピュータ制御部の皆さんによる「高校戦隊テックレンジャーショー」が行われました。日頃から、小さい子ども達に見せているショーは、大人も引き込まれる熱演で、大きな拍手が湧き上がりました。

高校教育とPTA、進路指導とPTA、生徒指導とPTA、家庭教育とPTAの4つの分科会に分かれ、研究発表会が行われました。本校の係は、それぞれ希望する分科会に参加しました。私は、第2分科会 進路指導とPTAに参加しました。

石川県立小松商業高等学校PTA会長からは、「進路実現に向けて～子供たちとともに～」という題名の発表がありました。PTA組織や企業・大学見学会、PTA研修会、土曜補習の支援についてお話がありました。小松商業高校は令和4年3月をもって閉校するそうです。この最後の3年間、子供たちのために何をすべきなのか、しっかりと考えて取り組もうとするPTAの熱い想いに感銘を受けました。

長野県からは、長野商業高等学校育友会会長から、「社会で必要とされる人



材育成に向けて、先生方と保護者が一緒に頑張って後押しを」という題名の発表がありました。長商の特徴ある教育活動として長商デパートの紹介がありました。毎年10月下旬に行われる「模擬株式会社長商デパート」は、日頃の学習活動の成果を、総合的・体験的に学習するもので、今年で96回を迎えます。地元でも大変な人気で、毎年、市民が楽しみに訪れるこの学校行事にPTAとして学校と協力して市内の校外指導を行っているとの発表がありました。

2日目は、信州大学教育学部教授兼日本スケート連盟ナショナルコーチの結城匡啓氏による「金メダリスト小平奈緒の成長を支えて～選手の力を最大限に引き出すコーチング～」と題して記念講演会がありました。選手にとって、自分に対して影響を与えてくれる存在からの刺激を受けながらセルフコーチングをして、そしてセルフオーガナイゼーションをしながら自分を高めていくことが大切であり、コーチングとしては、選手に働きかけるということが重要であることなど、これから求められる教育のあり方を示唆する言葉を共有できた貴重な機会でありました。

芸術鑑賞

音楽の力

3年E組 河村 樹里

5月30日に芸術鑑賞会でGentle Forest Jazz Bandの公演を聴きました。公演は二部構成になっており、ジャズの魅力が存分に伝わってくる内容でした。自分が知っている曲もいくつかあり、楽しんで聴くことができました。

私は吹奏楽部に所属しているので、バンドの皆さんと最後に宝島を演奏させていただきました。リハーサルのおかげでバンドの皆さんはとても気さくに接してくださったので、楽しく演奏することができました。プロの方々の音を間近で聴くことができ、プレスや音圧も会場にいた人の中の一番近くで感じることができたので貴重な経験をさせていただきました。本当に嬉しかったし、このような機会を設けてくださった方々に感謝しています。

今回の芸術鑑賞会を通じて感じたことは、「音楽の力はすごい」というこ

とです。私たちを一気に引き込み、会場全体が一つになって盛り上がる。そんな力を音楽は持っていると感じて感ずることのできた公演でした。そして、音楽は人の感情、さらには人生をも変える力があります。第一部で語られたジェントル久保田さんの人生がまさにそうでした。もしジェントル久保田さんがジャズに出会っていなかったら私たちはこの公演を観ることはなかったし、このバンドも生まれていなかったかもしれないのです。そう考えると音楽の持つ力はすごいと思えてきませんか。

私も形は違いますが音楽をやっている身なので、「音楽の力はすごい」と私たち吹奏楽部の演奏を聴いた人に思ってもらえるような演奏をしたいと思いました。



8月～12月

地区PTA

8月30日明科・生坂・会田地区から12月17日女鳥羽・菅野・鎌田・波田／安曇／奈川／大野川 地区まで、全32地区中29地区（実施率91%）で地区PTAが開催されました。学校長の挨拶、学校生活、進路など学校側からの説明の後、学年ごとに家庭生活、進路などの意見、情報交換がなされました。



本年度は、初めての試みとして、12月16、17日 松本市域の地区PTA懇談会合同開催を本校にて行いました。

地区PTA懇談会合同開催

12月16日 開成、信明、松島、丸の内 地区

17日 女鳥羽、菅野、鎌田、波田／安曇／奈川／大野川 地区

12月16日、17日19時から、学校会議室にて地区PTA懇談会合同開催を行いました。当日は、ぐっと気温の下がった夜の時間に杉村校長先生をはじめ、学年、地区担当の先生にも出席していただきました。16日は15名、17日には24名の保護者の参加がありました。

校長先生からは、全校生徒が本当に頑張っていること、学校のエアコンの設置、女子トイレ増築、100周年に向けての寄付のお願いのお話をいただきました。

生活指導の先生からは、自転車の交通マナーの改善について話がありました。自転車で歩行者に怪我をさせる加害者になると、相手の方も自分の家族も不幸になることを考え、安全運転を心がけることを教えていただきました。

進路指導の先生からは前年度の進路の状況と陵友館の開館の追加についてお話がありました。大学入学共通テストで英語の外部業者のテストはなくなったものの、一部の私立大学では業者テストを引き続き入試に使うことに気を付けて欲しいという話もいただきました。

1学年からは、東京研修旅行の様子、2年生からは、普通科台湾研修旅行の様子、3学年からは、授業の様子や卒業式、英語科閉科式についてのお話がありました。

PTA活動について、係の百瀬先生からPTA研修旅行のお話がありました。今年は東京にある早稲田大学を見学し、多くのOBやOGの方々の協力をいただき充実した研修旅行ができたとの報告をいただきました。

その後、学年ごと、地区ごとに分かれて情報交換を行いました。保護者同士でお子さんの様子を伺ったり、進路の悩みを直接先生に聞いていただいたりと、十分な時間を情報交換には取っていたのですが、予定時刻になっても話は尽きない楽しい会でした。

活躍する縣陵生 その②

信州つばさプロジェクト2

Fijiに行かないとわからなかったこと

私は、12月7日から20日まで、信州つばさプロジェクトの奨学金を利用しフィジーにボランティア留学に行きました。目的は、フィジーのリアルを自分自身で体験し、異文化を理解することでしたが、目的以上のものを得た素晴らしい留学となりました。オーストラリアと日本から集まった高校生と共にとっても小さな幼稚園で、ホリデースクールの運営と、校舎のペイントや遊具作りをしてきました。子供たちは裸足で外を駆け回り、笑顔が輝いていてとても幸せな時間でした。私は、ボランティア活動を通して気づいたことが2つあります。1つ目は、人のために働く素晴らしさです。



「あなたのおかげで子供たちが学校に来ることができるの。本当にありがとう。」と先生が涙を流してくれました。人生で初めての経験でとても感動し、どんなに小さな事でもいいから人のためになる事をしようと思いました。2つ目は、フィジーでの環境教育の必要性です。街中に落ちていくゴミや、ゴミを外に投げ捨てる人の姿を見て私は言葉を失いました。発展途上国の現状を目の当たりにし、フィジーの人々・自然を守るためにゴミの捨て方やゴミ

が環境にあたる影響を示すポスターを作ってきましたが、もう一度フィジーに行き環境教育をしたいと思いました。この2週間で言葉で表せないほどの発見や経験をしました。発展途上国と言われる国に行かないと分からないこと、自分が本当に興味があることへの気づき、そして日本がどれだけ恵まれた環境であるかということ。この経験をもとに自分にできることをしていきたいです。



(2年A組 熊崎 里咲)

サイエンス・アソシエーション・プロジェクト ニュートリノ・アインシュタイン最後の宿題を解こう！

8月5日、探究科、普通科生徒24名が、2002年ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生がニュートリノ観測をしたカミオカンデと2015年ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生が「ニュートリノ質量を示す、ニュートリノ振動の発見」をしたスーパーカミオカンデ、日本初の重力波望遠鏡KAGRAの見学に行きました。

事前学習として、7月22日に本校物理教室にて中谷先生が「素粒子について」、春日先生が「重力波」の講義を行いました。ニュートリノという素粒子は、身近なところにあるものであることや、空間の非常に小さな歪みが重力波となって伝わっていくことを学びました。

7月23日には、信州大学 理学部教授竹下 徹 先生にお越しいただき、信州大学出前講座「光の速さの測定」を行いました。2mの実験装置を使って光速を調べましたが、ピッタリの数値が出たことに生徒は驚いていました。宇宙の始まりビック・バンについても学ぶことができ、貴重な機会を得ることができました。

7月24日には、信州大学基盤研究支援センター RI実験分野 RI実験支援部門廣田 昌大 先生にお越しいただき、「放射線」の講義と「放射線を見てみよう」の実験を行いました。きれいな放射線の飛跡を見ることができ、生徒から歓声が湧き上がりました。

8月5日朝6:20に松本駅西口に集合し、バスに乗って岐阜県神岡町にある東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設に向かいました。

東京大学三浦 真 准教授に「物質とニュートリノとスーパーカミオカンデ」と題した講演をしていただきました。ニュートリノについての大変丁寧な解説をしていただいたおかげで、スーパーカミオカンデのしくみや造られた意義を知ることができました。



KAGRA中央制御室



スーパーカミオカンデコントロールルーム

また、東京大学三代木 伸二 准教授にも「重力波で見る新しい宇宙」と題した講演をしていただきました。日本の重力波研究チームのリーダーも勤めていらっしゃる先生の講義は、分かりやすく楽しいもので、生徒達は重力波に関する興味や関心が高まりました。

午後は神岡鉱山の坑道をバスで移動し、山頂から地下1000mにあるスーパーカミオカンデを見学しました。大きな実験装置に取り付けられた数多くの測定機器を見ることが出来ました。スーパーカミオカンデ内に入るまたとない機会をもらい、そのスケールの大きさと研究者の方々の努力する姿を見て、さらに素粒子物理学に興味を持った生徒も多かったです。

引き続き重力波望遠鏡KAGRAの見学も行いました。2億円もするファイアガラス鏡に触らしていただいたり、長さが3kmもある大きな実験装置Xアームを見学することが出来ました。繊細かつ巨大な実験装置を目の前にして、日本の最先端技術のレベルの高さを実感しました。

スーパーカミオカンデ、KAGRAという日本の科学技術の粋を集めた施設・設備を見学できたことに、生徒は、喜びと幸せを感じました。「百聞は一見にしかず」といいますが、正に、巨大な、最先端の施設を目の前にすると、感激で言葉を失います。生徒も貴重な経験をすることができました。科学の研究が、いろいろな国の科学者が集まって共同で行われている現場を見ることで、チームで研究を進める上で、協調性も必要であることや、議論を交わすことの重要性を感じることができました。

東北スタディツアー

1、2年生の希望者13名で、夏休み後半の8月17日(土)～20日に東北スタディツアーに行ってきました。今年度延長した夏休みに「なにか主体的で探究的な研修の選択肢を」と探究学習推進室で企画したものです。東北の「復興」と地域の課題を探ることをテーマにした3泊4日の日程では、福島県福島市・相馬市、宮城県仙台市・石巻市を巡りました。参加した生徒は東北における「復興」の現実や未来へ向けた新しい地域づくりの実情を学び、大いに刺激を受けました。

単純なものの見方を相対化する

一日目は福島県福島市へ。途中、県の設置した「環境創造センター」で放射線や福島の除染の状況などについて展示とレクチャーで学びました。夕方からは福島市内にて元相馬高校教諭の渡部義弘先生にご講演をお願いしました。渡部先生は相馬高校教諭として、高校生の映像・音声作品の指導をされてきました。当日は震災当時に相馬高生が制作した映像作品等を鑑賞しながら、当時高校生としてその制作に係わった皆さんにもお越しいただき直接お話を聞きました。さらに会場には朝日新聞記者の青木美紀さんと東京学芸大学の太森直樹教授、熊本大学の石原明子准教授も駆けつけてくださり、多くのアドバイスをいただきました。原発をめぐる多くの葛藤や怒り迷い等がかえりながら、それでも歩んできたリアルな体験をお聞きし、様々な「立場」の違いを理解しながら、ものごとを丁寧に捉えようとする姿勢を学びました。

同世代との交流で「じぶんごと」に

二日目は福島県相馬市へ。午前中は元相馬高校教諭の武内義明先生に、震災当時の「浜通り」で起こったことについて、実際に相馬市近郊をバスで移動しながら、また避難所として使用された旧相馬女子高の校舎にも入って、お話をお聞きました。「原発」だけではなく、津波がふるさとを変えてしまった現実には、生徒は心を動かされたようです。午後は相馬高校生徒会のみなさんと交流しディスカッションを行いました。相馬高校は本校と同じような伝統校で「応援・校歌練習」があり、親近感を持つことができる高校です。生徒会役員の皆さんが当時経験したことやこれまでの生活について、生きた言葉でお話してくださいました。同世代として話もはすみ、多くの刺激と「パワー」をもらってきたようです。



相馬市の海岸で原発方面を望む

正解のない課題に挑む研究の実際を知る

三日目は宮城県仙台市へ。東北大学災害科学国際研究所の佐藤健教授のアテンドで、名取市閑上地区の「閑上の記憶」という施設や、「かわまちテラス閑上」というオープンしたての商業施設でお話を聞きました。また、仙台市内の「避難タワー」を見学し、その運用法を学びました。午後は東北大に移動し、VR(仮想現実)を災害理解に役立てる研究や、文理融合型の研究所の理念について学びました。土木と景観が専門の平野勝也准教授の講義では、人と人が出会いやすい工夫した女川のあたらしい街の計画や石巻市の旧北上川の堤防の設計などについて学びました。単に目の前のものを作り直すのではなく、その街の歴史からアイデンティティを見だし、そこに科学的知見を融合させることで復興を目指していました。平野准教授は、社会において正解のない課題に正面から挑むのが大学や研究の使命だと協調され、「復興」の考え方の奥深さを身にしみて考えることができました。



仙台市の避難タワー

地域づくりに奮闘する新しい世代

四日目(最終日)は宮城県石巻市へ。石巻市は人口規模が比較的大きく、震災時は犠牲者が最も多かった自治体です。避難所に貼りだした「壁新聞」で有名になった石巻日日新聞社では、震災時にわずかながらも正しい情報を伝えたことが避難者の心の灯火になったことや、地域の新聞社としての社会的使命を学びました。また、震災時に漂流しヘリで救出された経験をもつ熊谷利勝記者やYahoo!から転職した石森洋史さんの案内で、若い世代が運営するISHINOMAKI2.0の活動拠点でお話をお伺いしたり、前日の平野准教授が設計にかかわった「いしのまき元気いちば」と旧北上川堤防を見学したりしました。比較的若い世代が地域を想い新しい街をつくってゆく現場から、自分たちの地域とのつきあい方を顧みることができました。

「課題先進地域」から学ぶ

東日本大震災以来、東北の太平洋岸は多くの課題を抱えてきましたが、実のところそのほとんどは日本の多くの「地方」が今後あるいは今現在抱えている課題です。「原発」の問題は少し違って見える面もありますが、さながら再生可能エネルギーの実験場のようになった「浜通り」を学ぶと、日本のエネルギー政策と地方との関係が一筋縄ではいかない問題であることがわかります。そして、震災に係わらず、もともとあった少子高齢化による地方の苦難を、いわゆる「被災地」は待ったなしの問題として一足早く経験し、乗り越えようとしています。生徒達は一様に、「正解のない問題に立ち向かってゆくことが大切だ」との感想を残しました。東北で学んだことを地元「信州」ではどう考えればいいのか、地域をつくる当事者として自分なりに咀嚼し、それぞれの新たな探究的学びをスタートさせていきます。(文責 宮坂 正議)

活躍する縣陵生

第16回 日本の次世代リーダー養成塾に参加して学んだこと

リーダー塾とは、日本各地・アジアから集まった高校生185人が2週間、世界で活躍する講師（マレーシア首相や若田光一宇宙飛行士等）のお話をお伺いし、日本や世界に地球規模で起こっている課題解決にチャレンジしていきます。真剣に考え抜き、解決への具体策を探し、発表する「アジア・ハイスクール・サミット」を毎日行いました。

今年のテーマは「地球規模の問題を宇宙を通して解決させるためには」でした。このテーマに沿って1日3講義を14日間行いました。とてもハードな生活でした。その中で私の心に最も響いたのはマハティール首相の講義でした。私は質問できる機会を得て、人種差別について質問すると、どの国でも差別を無くそうという方向に向かっていることは間違いないと教えてくださいました。また、様々なディスカッションではグループの人たちと意見を交わしました。意見が一致しない時、相手にいかに自分の気持ちを言葉で伝えることが出来るか、相手の気持ちを受け入れることが出来るかが、とても重要なことを学びました。



講義を聴き、質問を考えるというサイクルを2週間行い、心も体も強くなりました。同世代の仲間と出会い、夢に向かって一生懸命努力している事を知り刺激を受けました。また、全国、アジアに友達ができたことでより各地域についても知ることができました。スマホ無しの生活でしたが、メディアに頼るだけでなく、人と人が話し合ったりすることの大切さを学びました。

(2年G組 實吉 恵)

学生記者派遣



この夏休み、信濃毎日新聞社の学生記者派遣事業に参加し、アメリカを訪れました。

私は、探究学習で世界一座位時間が長い日本人の座りすぎを解消することをテーマに掲げていました。そこで「スタンディングデスク」という高さを自由に調節できる机に注目しました。調べを進めていく中で、アメリカではすでに多くの企業・学校でスタンディングデスクが導入されていることを知り、実際に使用している人に生の声を聞きたいと思いました。アメリカでインタビューした20人中13人がスタンディングデスクを知っていると答え、3人は日頃から使用していました。彼らは皆、「健康的になる」「座りすぎは体に良くない」と話しており、スタンディングデスクが座りすぎの解消に効果があると一般に認知されていることが

分かりました。しかし、会社や学校などにいきなりスタンディングデスクを導入することは簡単ではありません。アメリカで取材した男性は「数十分おきに立ち上がって、ストレッチなどをしている」と教えてくれました。このような試みが、日本人の座りすぎ解消の第一歩になるのではないかと思います。



学生記者派遣で学んだことは取材だけではなくありません。この派遣で出会った仲間や大人たちが堂々と自分の夢や目標を語っている姿を見て、周囲の目を気にしてためらっているとチャンスを逃してしまうと痛感しました。かけがえのない出会いと思い出をこれからの力にして、どんなことにも挑戦していきたいです。

(2年B組 渡部 日向子)

陸上競技部



北信越新人陸上競技大会を通して

陸上競技部は、県新人陸上競技大会にて、男子走高跳、女子800m、女子3000mの3種目で1名ずつ、計3名が上位入賞を果たし、北信越新人大会に出場しました。

北信越新人大会では、女子800mに出場した宮本純伶さん(1A)が5位入賞を果たしました。北信越の舞台は決して甘いものではなく、私自身、待っていたのは苦しい結果でした。悔しさ、苦しさ、嬉しさ、楽しさ、感じたものは多かったと思いますが、自分の実力を県内に留まらず他県の実力者と比較したり、自分のレベルを直に感じる事が出来た事が一番の収穫かと思っています。そういった意味で、

北信越の舞台を経験出来たことは私を含め3人にとってとても良い経験値になったはずです。そして、この大会で入賞者を輩出できた事は、部としていい刺激になったと思います。

新人戦は、3年生が部活を引退し、1・2年生の体制になってから初めての大きな大会だったので、部全体として気合いの入った大会でした。そのような大会で、北信越出場者が3人という結果を残せたことは部として大きな功績だと思いますが、私たち陸上競技部は1人でも多くの選手が上位大会に進む事を掲げ日々の練習に励んでいます。これからもこの目標に屈することなく陸上に向き合っていきます。応援よろしくお願いします。

(2年G組 片瀬 賢斗)

9月12日

校内に響く歌声 2019合唱コンクール

9月12日午後、令和最初の合唱コンクールが行われた。夏休み前から各クラスで自分たちにふさわしい曲を選曲し、勉強や部活動で忙しい合間を縫って自主的に練習に取り組んできた。中学校のように音楽の授業でクラス合唱の指導をすることはないので、それぞれ生徒指揮者や伴奏者を中心に試行錯誤しながら合唱を創りあげていく。芸術の秋には少し早い残暑厳しい時期ではあるが、朝・昼休み・放課後など、校内のあちこちから聞こえてくる歌声は、爽やかな風のようになかなか良いものである。

結果の方は、今年度も3Gが最優秀賞、3Eと3Cが金賞と3年生が上位を占めたが、勝因はやはり「声の安定感（大人っぽい響き）」と「合唱表現に重要な歌詞の理解の深さ」であろうか。言葉の意味をひとつひとつ噛みしめ、自らの高校生活の経験を重ね合わせながら歌う響きは、聴く人々の心に届いたに違いない。コンクールなので順位はつくのだが、どのクラスも甲乙つけがたく素晴らしかった。特に上位のクラスの得点は本当に僅差であった。

さて、アメリカにあるマサチューセッツ工科大学（MIT）は世界トップクラスの科学系の大学であるが、「世界の難題に立ち向かうには技術や科学的創造力に加え、文化・政治・経済活動を



営む人間そのものの複雑さに対する理解が必要である」という考えをふまえ、必修科目の中に「人文・芸術・社会学」が組み込まれており、理工系の学生たちの多くが合唱や器楽合奏などのパフォーマンスに高い関心を持って取り組んでいるそうだ。AI時代に、AIの苦手分野といわれる芸術表現を学ぶことは、時代を生き抜くための武器になるのである。

今年の合唱コンで2クラスが選んだ「正解」という曲の歌詞に次のような一節がある。

何一つ見えない 僕らの未来だから
答えがすでにある 問い なんかに用
などはない ああ 答えがある問いば
かりを教わってきたよ だけど明日か
らは 僕だけの正解を いざ探しに行
くんだ

これから縣陵生一人ひとりが自ら見つけだし、大学さらに一生をとおして探究していくべき課題は、まさに「答

えのない問い」かもしれない。合唱コンで経験した「詞に自らの感情を重ね合わせ主体的に表現すること」や「クラス一丸となってひとつの音楽を創造していくこと」は、小さなことかもしれないが、「世界の難題に立ち向かい正解を導き出す」ための力にきつとなるだろう。

塚原 智恵（芸術・音楽）

【受賞クラス】

最優秀賞（金賞）	3年G組
金 賞	3年E組
金 賞	3年C組
銀 賞	3年A組
銀 賞	3年H組
銀 賞	1年A組
銅 賞	2年D組
銅 賞	2年A組
銅 賞	3年B組
指揮者賞	降旗 知哉（3E）
伴奏者賞	小林 花菜（3E）

最優秀賞受賞クラス 3年G組 中野 智世さん

私たち3年G組は「ほらね、」を歌いました。

短い練習期間ではありましたが、一回一回の練習に多くの人が集まり、皆で意見を出し合って練習しました。

この曲は2017年度の合唱コンクールで最優秀賞をとったクラスが歌っていた曲であり、私たちにその際の演奏が強く印象に残っていたので、今回はそれを上回る演奏をすることを目指しました。

審査員はもちろん、会場にいる全ての人の印象に残る演奏にしたいと思い、隊形移動を取り入れました。どんな隊形なら歌いやすいのか、様々な試行錯誤を重ねて決めました。

その結果、最優秀賞という素晴らしい賞をいただくことができました。「ほらね、」そして昨年度歌った「証」。この二曲を、このメンバーで歌ったことは私たちにとって大切な思い出の一つです。

10月11日

強歩大会

10月11日(金) 強歩大会

心配された天気も崩れることなく、暑すぎず心地よい天気の中で、第64回強歩大会が行われました。男子は32km、女子は27kmの距離を駆け抜けました。PTAの方々のお手伝い、差し入れありがとうございました。

11月14日(木) 強歩大会表彰式

10月に開催された強歩大会の表彰式が行われました。上位3位までには賞状とメダルが、上位50位までには賞状が贈られました。おめでとうございます！

大会結果

男子 1位 1-C 岡村 豪大君 (サッカー部)
2位 1-H 板花 光紀君 (陸上部)
3位 2-A 上條 陽輝君 (サッカー部)
女子 1位 3-G 工藤 愛菜さん (陸上部)
2位 2-C 増田 彩花さん (陸上部)
3位 2-A 佐藤 優花さん (陸上部)

1-C 岡村 豪大君にインタビュー



Q1 自分の出した記録に関してはどう思いますか？

A 素晴らしい記録だと思います。

Q2 コースの印象はいかがでしたか？

A とても長かったし、特に牛伏寺が辛かったです。

Q3 子ども時代の話聞かせてください。長距離に強くなったきっかけは何ですか？

A 山に登っていたから？かもしれないです。

Q4 走ることは好きですか？

A 好きです。

Q5 どうしてそんなに速く走れるのですか？

A 自分でも分かりません。筋肉に聞いてみて下さい。

Q6 部活動が競歩大会に役立つことはありますか？

A 部活動の毎日の走りが実を結びました。

Q7 来年度競歩大会の抱負をお願いします。

A もし出場したら全力を尽くしたいです。

3-G 工藤 愛菜さんにインタビュー



Q1 コースの印象はいかがでしたか？

A 急な山道等はきつかったですが、沿道で応援して下さる保護者の方々や地域の方々の声援が温かったです。

Q2 子ども時代の話聞かせてください。長距離に強くなったきっかけは何ですか？

A 小学校の頃は合唱部で最初に走るのが苦手でした。4年生の時、地区の駅伝に出て地区の皆さんとタスキをつないで楽しい!と思ったことが始めたきっかけです。そこからコツコツと練習をしていくうちに少しずつタイムが伸びる長距離走が好きになりました。

Q3 どうしてそんなに速く走れるのですか？

A 苦しさの後に必ずゴールがあり、その時の嬉しさが忘れられないのでそれに向けて頑張ることができるのだと思います。多くの人がつらい事やくじけそうになることはあると思いますがコツコツと努力していけば少しずつ結果はついてくるものだとは私は信じています。3年生は受験という大きな壁もありますが、勉強も長距離同様くじけず頑張ることが自分の力になるのでそういう所にも陸上は活かしているなと感じました。

Q4 卒業してから、今後、長距離走を続けていきますか？

A もちろん、続けていきます。ハーフやマラソンで将来は活躍していける選手になりたいです。

活躍する縣陵生 その④

物理・化学部



縣陵eスポーツ

eスポーツというのをご存知でしょうか。eスポーツは近年世界各国で取り上げられ、経済効果をも生み出している。もうただのゲーム

という時代ではありません。そこで私はそんなに大きな効果をもたらすeスポーツを縣陵で取り入れたらどんな利益が得られるのだろうか、長野県にeスポーツをもっと普及したいと思い、一昨年11月に1人の友人とともに立ち上げました。最初は数名だったのですが今では10人程度で活動しています。活動していく中、2019茨城ゆめゆめ国体文化プログラムウイイレ部門の県予選が松本市で開かれるのを知り、4人で出場しました。予選会場はとても白熱し、eスポーツの雰囲気を生で初めて味わえることができ、とても印象深いです。見事優勝することができ、県代表として本大会の出場権を獲得できました。本大会では各県の代表と名だたる選手ばかりでグループリーグ敗退という形になってしまいましたが、同じeスポーツ同じ競技で競い合えた各県の仲間と仲が深まりました。これもeスポーツのいい面なのかと改めて実感しました。この活動ができるのも日々見守っていただける先生方のおかげだと深く感謝しています。ぜひみなさんでeスポーツを長野県で盛り上げていきましょう！

(2年B組 三浦 成騎)

空手道部



『ONE TEAM』

空手道部、女子団体形は新人戦中信大会、県大会で2位となり北信越大会出場を決めました。

北信越大会では2グループに別れてのリーグ戦で、予選の第1ラウンドで3位通過、続く第2ラウンドでも3位で通過し、メダルマッチへと駒を進めました。メダルマッチでは1点差で惜敗し、ベスト6になりました。入賞こそ逃したものの、このような大舞台で最後まで私達らしく堂々とやりきれたこと、そして高いレベルの選手、団体に健闘したことは私達にとって大きな力になりました。

私たち空手道部では、初心者として空手道を始めた人がほとんどで、ほぼゼロの状態からのスタートになります。また、常時指導して下さる指導者もいません。ですが、少人数で活動しているためみんなの意見を一つ一つ聞きながら部員内で練習メニューを考え、反省点を見つけ、練習に活かすなど技術向上を目指し、声を出し合いながら励まし合って活動しています。また、先輩方が創り上げてくださったチームカラーである「笑顔」を大切に技術面だけでなく精神面でも成長していけるように、頑張っています。

今回、このような結果を収め、全国大会への切符を掴んだことは私達空手道部だけの力だけでは決してありません。私たちの自主性を優先し活動させてくださる顧問の先生、支援して下さった全ての方々の支えにより掴めたものです。

この大会を通じて自分達の成長を感じ、さらなる課題を見つけることが出来ました。部員一人一人がこの経験を生かし、感謝の気持ちを忘れず今後の大会でさらなる成長を目指していきます。これからも応援よろしくお願いします。

(2年F組 野澤 麗)

11月9日

PTA研修旅行2019

～早稲田大学訪問記～

11月9日(土) PTA研修旅行が行われ、戸都の西北～早稲田大学の早稲田キャンパス、及び戸山キャンパスを大型バス2台で訪問しました。

今年で10回目となる研修旅行は、PTA会員同士の親睦を深めつつ、保護者の立場から「進路選択、大学進学につ



政経学部教室にてPTA役員挨拶
(矢口副会長)

いて学ぼう。県ヶ丘高校の卒業生がどんな大学生活を送っているか実際に会いに行き話を聞いてみよう。」という目的で実施されてきました。こうした研修旅行は他校でも実施されていますが、本校の特徴の一つが訪問先の大学に進学した卒業生との懇談、そして、生徒も参加できるということです。(申込状況により生徒の皆さんの参加をお断りする年度もあります。) そのため親子で参加をしてくれるご家庭もあるということで、今年度も親子参加のご家庭が複数ありました。この研修旅行が、親子参加はもちろん保護者のみ、生徒のみの参加であっても、参加していただくことでご家庭の中で進路について話し合う機会を増やすきっかけになればよいと思います。

さて、本年度の研修旅行では本校卒



現代的な早稲田
キャンパスの校舎

業の7名の現役早稲田大学生が懇談会に参加してくれました。卒業生の皆さんは、事前に懇談会場となる教室の予約や、当日参加者にお渡しする早稲田大学のガイドブック、参加記念品の選定や手配などで協力いただきました。懇談では、まず大学紹介ということで学生自作のスライドを使って早稲田大学の紹介をしてくれました。「ある学生の一週間」では、一週間の時間割、サークル活動、アルバイトなど学生生活の様子を赤裸々に話してもらい、特に生徒の皆さんにとっては大学生活をイメージしやすくなったのではないかと思います。続く自己紹介でも、各自が自作のスライドを作成し、授業やサークル活動、またインターンシップ(就業体験)などを交え



懇談に参加してくれた県ヶ丘卒業の現役早稲田大学生の皆さん



学部別の懇談
学生の話に真剣なまなざし



卒業生の話が止まらない
トークの力も高校生とは雲泥の差



懇談会終了、参加者全員で記念写真



早稲田大学のシンボル大隈講堂



早稲田大学校歌の碑 都の西北～



大学生協のグランド坂食堂



創立125周年を記念して誕生した
マスコットキャラクター WASEDA
BEAR (ワセダベア)

て、涙あり笑いありの話をしてくれました。7名の学生は、それぞれ政治経済学部、商学部、教育学部、文化構想学部の4学部・に在籍しており、個別懇談では前半後半の2部に分けて、希望する学生のところで質疑応答を交えながら懇談しました。学生の皆さんは、参加者から事前に募集した質問への回答を交え

ながら大学生活や、高校時代のことを話してくれました。午後は、学食での昼食後、キャンパス見学へ。学生の皆さんにガイド役をお願いし、大きなキャンパス内を隈なく案内してもらいました。最後は大隈重信像前で記念写真。

卒業生は充実した大学生活を送っているようで、生き生きと輝いたその姿に

参加した生徒は憧れを抱いたようです。終了後のアンケートでは「来年も参加したい」という感想を多数いただきました。この研修旅行も進路選択、大学進学を考える際の良い機会になっているようです。来年度も、来年度こそ、ぜひご参加ください。



早稲田キャンパス見学中
(見上げる高層ビルの校舎)



創設者の大隈重信像前で記念写真



戸山キャンパス見学中(右後ろは早稲田アリーナ)



早稲田キャンパス見学中
とにかく広い…



PTA 役員と現役早稲田大学生の
本校OGOBの皆さん
本日はありがとうございました

活躍する縣陵生 その⑤

卓球部

全国選抜卓球大会出場へ!

私は新人戦の県大会個人戦で3位となり、全国選抜大会に出場することになりました。

中学のときには卓球部がなく、いつも応援のなかで試合をしてきました。高校に入り卓球部のみんなが応援してくれることが嬉しく、いつも力をもらっています。県大会では、ベスト8決定戦でセットカウント2-0リードから2-2のフルセットに追い込まれて苦しい状態のとき、観客席を見上げると満面の笑顔で応援してくれている先輩たちがいました。先輩たちの笑顔を見て緊張がほぐれ心も落ち着き、最終セットを冷静に戦うことが



できました。準決勝では自分の力を出し切りましたが、フルセット11-9で惜しくも敗れてしまいました。応援のおかげもあり3位という結果を残すことができました。卓球部のみんなには本当に感謝しています。

全国選抜大会は3月末に千葉県千葉市で行われます。各県の上位者が集まり、初戦からレベルの高い戦いとなりますが、自分の力を出し切って挑戦していきたいです。また、トップレベルの技術や戦術を学び、今後の成長に繋げていきたいです。

毎日当たり前のように卓球をしています。毎日練習ができる環境を当たり前だと思わず、顧問の先生、指導してくださる方々、練習してくれる仲間、家族に感謝の気持ちを忘れず、目標に向かってこれからも頑張っていきたいです。

(1年F組 山田 莉子)

12月4～6日

『1年』探究科・普通科国内研修旅行



【旅程】

1日目:東京グローバルゲートウェイ

2日目:SDGs探究・企業訪問(班別行動)

3日目:大学・研究所研修(コース別行動)

「東京」で「探究」の意義を掴んだ三日間

1年A組 唐澤 幸輝

「東京は想像以上に発展している。」これは、私が東京に着いて一番最初に思ったことです。

土地を無駄なく使用するために高く作られたビルや張り巡らされた高速道路。特に私たちが二日目の移動に利用した電車では、ちょうど通勤通学時間とかぶってしまい「満員電車」という名の電車内場所取り争いに巻き込まれました。ここから考えたことは、都会の人の心の強さについてです。私たちは1日人にもまれるだけで酷くたびれるのに、この辛さを毎日耐えるだけのメンタル力がありました。ということは社会に出た時のストレスへの耐性が田舎でのんびりと暮らしている私たちよりも格段に高く、社会的に有利なメンタルを生活の中で育てています。そのような環境を私は羨ましいとも思いました。

さて、そんな東京で私たちはSDGs(持続可能な開発目標)について学んで来ました。それぞれ自分の選んだ目標について取り組みを持つ企業に自らアポをとり、二日目の自由行動で企業を訪ねるという内容です。私は目標の4番(質の高い教育をみんなに)をテーマに探究してきました。

私たちの班は「教育と探求社」という学校に教育プログラム(クエストエデュケーション)を提供する企業に訪問し、質問に回答していただきました。クエストエデュケーションとは、私たちの経験するであろう未来の社会、人工知能の発達や少子高齢化が急速に進み、もはや私たちが予測できない変化に対して自ら考え、自ら判断し、自ら動く。その基盤を作るため、私たちが普段行っている「探究」をベースとした教育を生徒に施す、というものです。

最近、大学入試でもセンター試験から共通テストに変えようとしたように、「答えの無いことや常識が崩れたことに対して一石を投じることが出来る」意見を提示できる力が求められる時代になりました。この話を聞いて、是非とも自分の未来のため、身近な地域や日本の未来のため、日々の探究活動を楽しく意義あるものにしていきたいと感じました。

そして、この旅の1番の目玉と言っても過言ではない「大学見学」。私は「JAXA相模原キャンパス」へ行ってきました。話題はもちろん今、小惑星(リュウグウ)の物質を地球へ持ち帰り、中の「はやぶさ2」。このはやぶさ2ミッションの目標は人類誕生のルーツを知ること。私はこのことに関して正直に言うてしまうとこれだけのお金をかけてこのミッションを達成する意味があるのか、人類誕生のルーツを知って何をやるんだ、と常々思っていました。JAXAの澤田崇弘さんは、このくだらない質問に「やっぱり知りたいじゃん?それは人間の…なんていうかな人間の本能的な探究心じゃないのかな。しかも人類の誕生から今までを知ることができれば人類の終焉…いわば人類の最期が分かる時が来る。そういうのワクワクしない?」と答えてくださいました。私は大切なことを忘れていたことに気づきました。子どもたちが遊びが好きなように、好きなことに理由はいらない、根本的な理由は至ってシンプルで「やりたいからやる。楽しい、面白いから好き。」このような生物の本能由来の探究心が私たちのやっている探究の1番大切な部分ではないかと考えました。

英語を学んだTGGと社会課題解決に力を入れる味の素

1年D組 西澤 希美果

私たちは東京研修1日目に東京グローバルゲートウェイへ行きました。私はトラベルゾーンとニュース作りを体験しました。トラベルゾーンでは薬局やファストフード店での商品の買い方を学びました。そこで私は相手が話している言葉を聞き取ることができなかったり、自分が話したいことも英単語が分からず伝えることができませんでした。しかし、ネイティブスピーカーの方が単語をわかりやすく変えて話したりゆっくり何度も話すなどたくさん助けて下さったので無事にミッションをクリアすることができました。そしてニュース作りでは私は気象予報士の役をやり英語で天気を伝えました。そこでは、人に何かを伝えるときは、笑顔でジェスチャーをつけることで伝わりやすくなることを学びました。ネイティブスピーカーの方がジェスチャーを教えてくださいましたので楽しく伝えることができました。TGGで学んだことをこれからの英語の学習や将来に生かしていきたいです。

2日目の班別行動では味の素株式会社の本社へ伺いました。味の素は、企業としての利潤を求めながらも、社会課題解決に力を入れています。SDGsの飢餓をゼロにという目標ではベトナム学校給食プロジェクトで、小学校の給食のメニュー開発や、日本からキッチンを送るなどしています。また、各学校に栄養学科を創設し、現地の栄養改善に努めています。私は、これを知って自国の企業が発展途上国の飢餓をゼロにするために、はたらきかけていることに感動しました。これからの探究学習において、社会問題について考える際は、お聞きしたことを元に解決策や、自分たちができることを考えていきたいです。また味の素では、地域によって、パッケージを変えるなど、工夫をしているそうです。探究学習でもその地域の地域性に目を向けて考えることが大切だと感じました。

この三日間で、人に頼ろうとせず主体的に行動することで、計画的に物事が進むことを学びました。また、英語を話せるようになるような学習をしていきたいと思いました。





【旅程】

12月4日 9:00松本→中部国際空港→台北・桃園国際空港→プレザントホテル桃園
12月5日 コース別研修 (SDGsのテーマ別6コース)
12月6日 学校交流→九份散策
12月7日 B&Sプログラム (大学生と班別行動)
12月8日 プレザントホテル桃園→台北・桃園国際空港→中部国際空港→21:00松本
【費用】 約140,000円



素晴らしい交流を通して

2年C組 江藏 咲樹

私たち2年普通科は12月4日から8日まで台湾研修旅行に行きました。台湾での活動は3日間でしたが、私はこの3日間という短い期間の中で多くの人と関わることを通して色々な新しいことを学びました。

1日目は、SDGsのテーマ別のグループでの研修でした。私のテーマは教育だったので、雲林科技大学を訪問しました。留学中の日本人学生や他の国から来ている学生による学校紹介や図書館案内そして会話を通じて、台湾の大学の様子やライフスタイルを知ることができました。留学生の皆さんは異国での言語の壁があるにも関わらず、むしろそれを強味にして、台湾での大学生活の中で、様々な友人と交流して、日々多くのことを吸収している印象を受け、私も外国で学んでみたいというきっかけになりました。

2日目は、2講座ごと台湾の高校との交流で、私は成淵高等学校を訪問しました。正直、はじめは学校紹介やディスカッションで学生としゃべるのが怖かったです。しかし、台湾の学生はすごくフレンドリーで、お互いの学校や生活についてたくさん話をすることができて、とても楽しく刺激を受けた時間でした。お別れのときも、すごく名残惜しかったく

らい良い関係が築けてとても嬉しかったです。

3日目は、自分たちでプランを立てたところを台湾の大学生の方と回るB&Sプログラムでした。まず、案内をしてくれた大学生の方がとても優しく、お話しするのがとても楽しくて、3日間ずっと台湾の人たちの人柄の良さを感じました。色々な場所に行って、台湾はすごく良いもので溢れているなと感じました。特に私は、とてもおいしかった小籠包が恋しいです。あつという間に3日も終わりました。

私がこの旅行で最も学んだことは、人と関わることの楽しさと重要さです。実は研修の準備を始めたのは、わりと直前でした。そのため、私は英語での学校紹介やディスカッションで上手に話せなかったらどうしようという不安でいっぱいでした。そのせいで、交流を楽しもうという気持ちすら忘れていました。しかし、実際は台湾の人たちは良い人ばかりで、準備のことを考えすぎるより、その場でコミュニケーションをとり、楽しむことが重要だと気づきました。あいにく天気はずっと雨でしたが、それを忘れてしまうほど充実した旅行になりました。

活躍する縣陵生 その⑥

書道部

私は書道部に所属しており、毎日書道に親しんでいます。

長野県書道展覧会で特選という賞をいただきました。お手本を見ながら練習し、たくさん書きました。なにより先生方のたくさんご指導のおかげなので感謝しています。

また成田山全国競書大会では優秀賞の読売賞をいただきました。半紙の小さい紙の中に、バランス良く文字を収めるのはとても苦労しました。この作品は取り組む期間が短かったこともあり、自分の中では納得のいく作品に仕上げることができなかったのですが、今回この賞をいただけて大変嬉しいですが悔しい気持ちも大きいです。

私は小学校1年生から中学校まで書道教室に通っていました。これまで続けてきたことが成果として現れたのはとても嬉しいです。

今回いただいた2つの賞はどちらも隷書の作品です。私は高校生になって隷書を書き始めたのですが、力強くもありやわらかさもある特徴的な筆づかいや文字の形に惹かれました。平べったく潰れた形で横画は水平、起筆と収筆の部分が丸いのが隷書の特徴です。独特な書体ですがお店の看板や日本の紙幣など身の回りでも意外と使われていたりします。

私はスマホやパソコンの現代にこそ字を書くことに意味があると思います。一つ一つの字と向き合ってみると色んな発見があります。これから書の歴史に触れ、様々な書体にチャレンジしながら書道を続けていきたいです。 (2年E組 熊谷 友月)



弓道部

全国選抜弓道大会出場

私は、群馬県で行われた全国選抜弓道大会に出場させていただきました。新人戦県大会では団体戦で男女ともにベスト8まで残ったものの全国大会出場を果たすことはできず、今回は個人戦での出場となりました。

北信越大会を経て全国大会当日、会場に入ると今まで味わったことのない、引き締まった雰囲気を感じました。毎年全国大会に出場している常連校もたくさん来ていて、「本当に全国大会に来たんだな」と改めて感じたことを覚えています。100名が出場した予選は4射3中で通過しましたが、31名が残った準決勝を突破することができず、夢の舞台であった決勝には出場することはできませんでした。中信大会から始まった長い戦いの幕が閉じました。結果は残念でしたが、全国の舞台で弓を引いたり、強豪校の射型を見たり、応援や挨拶を聞いたりする中で、私たちの活動ではまだまだ足りないものに気付くことができました。

全国大会までの道のりは長く、大変なことも多くありましたが、周りの仲間や家族、先生方からの応援やサポートのおかげでこのような舞台に立つことができました。この経験は自分自身の大きな財産になったと思います。

弓道部は全国大会出場を目標に掲げて活動しています。春の大会では団体戦で、もう一度全国の舞台に戻ってこられるように努力していきたいです。

(2年E組 内山 未衣)



世界に羽ばたく卒業生！

さらば友よ！



組

A組担任 本山 修

卒業おめでとうございます

3年間という時間の長さはクロノス時間としては同じでも、人それぞれに相対的なものであったことでしょう。これからも人生は続きます。最短距離でゴールを目指すことが幸福につながる道になるとは限りませんよ。



組

B組担任 藤岡 善弘

卒業おめでとう

これからのみんなの人生、山あり、谷ありますが、今の自分の頂に向かって頑張ってください。



組

C組担任 細田 明彦

新たな旅立ちに

進路を決めるのは風ではありません。それは帆の向きです。風向きを変えることはできませんが、帆を調整することはできます。最大限の幸福、平和、満足を得るために、前向きな姿勢を選んでください。



組

D組担任 藤原 未幸

一日一生、一日一笑 ☺

いよいよ旅立ちのときですね。これからの人生も1日1日を大切に、精一杯生きたいですね。そしてみんなの笑顔は宝です。みなさんの未来が笑顔あふれる幸せなものでありますように。



旅立ちのとき



E組担任 橋本 智

己を大切に

「太陽には太陽の輝きがあり、月には月の、そして星々には星々の明るさがある」
(ペスタロッチ 1746-1827) 自身の輝きを大切に、そして、人の輝きも尊重して。



F組担任 草間 俊文

いつまでも絶えることなく♪

學而時習之。不亦説乎。
有朋自遠方來。不亦樂乎。



G組担任 石坂 珠緒

HEROたちへ

自分の人生は“自分のもの”です。“他の誰か”に惑わされることなく、自分が正しいと思う道を、自分がやりたいと思う道を、胸を張って進んでください。ただ、周りの人に感謝する心と、大事な人を大切にする心を忘れないでね(^-^)
卒業おめでとう心からの祝福と、ほんの少しのさみしさを込めて…



H組担任 郷原 俊一

やっぱり「英語科」!

授業をすると、その静けさに戸惑いを覚えるほど。「紳士、淑女に育てる」とは赤羽先生の言葉だった。でも、実は? やっぱり「英語科」弾けてる! あのホールムービーが未だに忘れられない…。



～縣陵2019年度 SNAP～



編集雑記

- 皆さんとワイワイと原稿のチェックをして、楽しかったです。美味しいお弁当をいただいて、良かったです。学生のころにもどった感じがしました。(委員長 3B 有馬)
- 副委員長でしたが、委員長と先生に頼りっぱなしでした。それでも みんなで楽しく校正し、良い思い出になりました。(副委員長 3F 望月)
- おいしいものをいただき、少し早く記事を読む特権をいただきました。ありがとうございました。(3A 高木)
- 役員になった時は心配でしたが、終わってみれば楽しい活動でした。小・中・高を通しての役員

もこれで終わりかと思うとホッとしたようなさみしいような。ありがとうございました。(3D 矢ヶ崎)

- 今年は、小・中・高のPTA役員をしました。しかも中学は部長。全ての会に出席しましたが、高校を一番楽しみに来ました。原稿を先に拝見できてしまうのですから。この委員を選んでよかったと思いました。(3G 上條)
- 今回も校正のみの参加でしたが、先生や役員の皆様のご苦勞の甲斐もあり、良い新聞となっております。出来上がりが楽しみです。ありがとうございました。(2E 西沢)
- 我が子から聞く話だけでは分からなかった学校の子どもの様子や先生方の思いを、PTA会報を読むことで知ることができました。

でも、この小さい字を読むことに苦戦したのは私だけでしょうか… (笑) (2E 森村)

- 校正をしていたら、目が…! 年令を感じる活動でした。でもクラス・学年を超えて、委員の皆さんとお話ができて楽しかったです。(2F 一本木)
- 我が子だけでなく、他の学年の子ども達の様子を知る事が出来るPTA会報は、校正している段階でもとても楽しく読めました。(2H 遠藤)
- 校正作業を通じて、いち早く「縣陵」に目を通すことができ、役得でした。生徒とPTAの1年間の軌跡となった自信作です。(1D 勝家)
- 1年間お世話になりました。和やかな雰囲気の中、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。(1B 高見澤)



松本県ヶ丘高等学校PTA会報

縣陵 137号

発行日●2020年3月1日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社
写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

